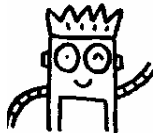


げんじ しょうぐん 源氏の将軍が絶えた後、将軍はどうなったの



ほうじょうし こうぞく かたが じっけん
北条氏が、公家や皇族を、肩書きだけで実権のない将軍につけたんだよ。

第3代将軍の源実朝みなもとのさねともには、子どもができなかったので、執権しっけんの北条義時ほうじょうよしときと、「尼将軍あましようぐん」とよばれた政子まさこは、次の将軍に、後鳥羽上皇ごとうはうじょうこうの皇子おうじを招くことに決めました。しかし、1219年に実朝が暗殺されると、上皇が反対したため、実現しませんでした。そこで、初めは公家の藤原氏から、後には皇族から、人を招いて、肩書きだけで実権のない将軍の職につけたのです。

藤原氏から招いた摂家将軍

藤原氏のうち北家きたけ、特に最初の摂政せつしょうとなった良房よしふさの子孫は、摂政・関白かんぱくに任命される家柄いえがらとして、摂関家せつかんかとか摂家せつけとよばれます。鎌倉時代初期には、近衛かまくらじだい・九条このえ・二条くじょう・一条にじょう・鷹司いちじょうの五家に分かれ、これを五摂家ごせつけといいます。第4代・第5代将軍は、九条家から招いたので、摂家将軍とよばれています。

4代(1226～1244年)九条頼経くじょうよりつね：左大臣さだいじん(のち関白・摂政)九条道家くじょうみちいえの子。
源頼朝みなもとのよりともの妹のひ孫ひまごにあたる。2歳さいで鎌倉に行き、7歳で将軍になった。

5代(1244～1252年)九条頼嗣くじょうよりつぐ：頼経の子。6歳で将軍になった。

皇族から招いた親王将軍

北条氏にとって、摂家将軍は、皇族しんのうしやうぐんを招いて将軍につけるまでの、ただのつなぎでした。第6代からは、皇族が3～13歳で将軍になりました。

6代(1252～1266年)宗尊親王むねたかしんのう：後嵯峨天皇ごさがの第1皇子。

7代(1266～1289年)惟康親王これやす：宗尊親王の第1王子。

8代(1289～1308年)久明親王ひさあき：後深草天皇ごふかくさの第6皇子。

9代(1308～1333年)守邦親王もりくに：久明親王の第1王子。